2013 年 12 月 1 日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics

Newsletter No. 18

Maxillofacial Prosthetics

発行人　石上友彦　　編集　広報委員会

事務局　〒135-0033　東京都江東区深川 2-4-11　一ツ橋印刷（株）　学会事務センター内

Tel：03-5620-1953　Fax：03-5620-1960

E-meil：max-service@onebridge.co.jp

第 31 回学術大会案内

大会長　**高橋　哲**

（東北大学大学院歯学研究科）

会　期：平成 26 年 6 月 20 日（金）～ 22 日（日）

会　場：仙台市民会館

〒980-0823 仙台市青葉区桜ヶ岡公園 4-1

事務局：東北大学大学院歯学研究科

顎顔面・口腔外科学分野

電　話：022-717-8350

E-mail：kushihara@dent.tohoku.ac.jp

このたび，第 31 回学術大会の大会長を担当させていただくことになりました高橋　哲でございます．大会長を仙台の地で開催させていただき大変光栄に存じます．今回は外科の立場から特別講演，シンポジウムを企画させて頂きました．まず，特別講演にはスイス・ベルン大頭蓋顎顔面外科学講座主任教授の飯塚建行先生をお迎えし，「ヨーロッパにおける近年の顎顔面補綴とインプラント」という題でお話いただきます．シンポジウムのテーマとしては「顎顔面領域の 3-D」を上げ，昨今急速に進歩している 3-D の技術の臨床応用を，補綴と外科の立場から 4 名の先生にお願いしております．特別講演とシンポジウムを通して最新の先端技術をどのように顎顔面補綴に応用するか，今後の方向性を探る重要なシンポジウムになるものと期待をしております．また併催されます第 19 回教育研修会ですが，今回は「顎補綴＝外科＋補綴―すべては患者さんのために―」をテーマで 2 名の先生にお願いしております．患者さんのための最良の顎補綴治療を目指すために何が必要かを考える有意義な研修になるものと思います．学術大会初日の夕方には恒例の会員懇親会を予定しております．

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から 2 年半が経過いたしました．被災に際し本学会会員各位より物心両面にわたるご支援をいただき，誠にありがとうございました．私事ですが，2012 年に九州歯科大学から東北大学に転任となり，出身地仙台での開催となりました．6 月の仙台は，まさに青葉もゆる，1 年の中でも最も美しい季節です．大会中はぜひ仙台の風光明媚な自然と食も楽しんで頂ければと思います．是非，お越しくださいますようご案内申し上げます．

第 30 回学術大会報告

平成 25 年 6 月 21 日（金）22 日（土），福島県郡山市の市民交流プラザにおいて，山森徹雄大会長（奥羽大学）のもと，第 30 回日本顎顔面補綴学会学術大会が開催された．

大会初日には第 18 回教育研修会，特別講演，一般口演 20 題および認定医ケースプレゼンテーション 2 題があり，2 日目にはシンポジウムと一般口演 18 題の発表があった．

参加者で超満員の会場

第 18 回教育研修会

「周術期口腔機能管理と広範囲顎骨支持型補綴」

左から講師の大西先生，後藤先生，尾澤先生

今回の教育研修会は，東北大学病院・歯科部門・顎口腔再建治療部の小山重人先生を座長として，「周術期口腔機能管理と広範囲顎骨支持型補綴」というテーマで，3 先生方によって行われた．はじめに，市立池田病院の大西徹郎先生が，「周術期口腔機能管理について」で講演された．周術期とは，術前，術中，術後の一定期間を示し，この期間の外科的治療，手術看護，栄養管理，メンタルケアなどを管理することの重要性を話された．周術期口腔機能管理の中で，術前術後の口腔ケアを歯科医師の指導のもとで看護師が行い，入院患者の口腔ケアの標準化を行うようになり，患者の予期せぬ疾患発生を減らし，在院日数を減らすことで，患者の入退院までが効率良くなった．また，現在では他科においても，入院前に掛かり付けの歯科医院にて口腔ケアを行ってから，入院するケースも出てきたことなどを熱く語られた．

次に，佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座の後藤昌昭先生が，「広範囲顎骨支持型装置及び広範囲顎骨支持型補綴について」で講演された．顎骨再建症例において先進医療の保険導入について保険点数とコスト，材料の指定，インプラントの指定などで色々と制限があり，矛盾が出てくることについて語れた．

最後に，愛知学院大学歯学部有床義歯学講座の尾澤昌悟先生が，「インプラントを応用した顎義歯のガイドライン」で講演された．顎骨欠損患者においてインプラントは，顎義歯の維持安定に対しての必要性や，放射線治療での放射線照射量が 30 ～ 40Gy まででは，インプラント埋入に対しての影響が少ないことや，インプラント治療と保険との兼合いについて語れた．

（広報委員　山口能正）

特別講演

「末梢神経損傷部への嗅神経鞘細胞移植の有用性」

高田　訓先生（右写真）

奥羽大学歯学部口腔外科学講座

高田先生は，皮弁による再建に「形態のみならず機能も付与したい」という発想から，この研究をはじめられたそうだ．大阪大学研修時代，舘村先生の影響をお受けになり研究に勤しんだお

話しから始まり，基礎から臨床応用まで一気にお話しになった．その中で「神経吻合により筋の状態が保たれること」「下歯槽神経への大耳介神経移植による感覚の回復，しかし，違和感がのこること」などをお話しされ，次々に湧き出る疑問や得られない満足感への挑戦を継続し，ついに神経幹細胞からの NSCs，そして鼻腔粘膜からの嗅神経被膜細胞（OEC）移植に行き着き成果をあげている事をお話しされ，神経再生への明るい未来を感じ，動き出す筋皮弁を夢見た．

（広報委員　関谷秀樹）

シンポジウム

「舌接触補助床の真髄を探る」

左からシンポジストの堀先生，中島先生，座長の小野先生

本邦において嚥下障害の臨床・研究活動が開始してから 30 余年と比較的歴史は浅いが，高齢化社会，介護，疾病罹患後の QOL の重要視といった背景のもと，摂食・嚥下リハビリテーションは急速に発展を遂げてきた．近年，摂食・嚥下リハビリテーションの一つのアプローチとしての舌接触補助床（PAP）が脚光を浴び，臨床研究，ガイドライン作成，系統的な調査や報告が蓄積されてきたことを反映し，大阪大学小野高裕先生をコーディネーターに迎え，舌接触補助床に関する知見について，3 人の演者が講演を行った．

まず，「舌接触補助床の適応症と有効性について」との題で，私（防衛医科大学校歯科口腔外科中島純子）より話をさせていただいた．比較的規模の大きな PAP の適応状況に関する調査の結果を交え，舌切除患者のみならず脳血管障害や神経筋疾患，加齢などに伴う舌の運動能力に障害がある患者への適応が多くなっている事を示した．また，口腔期，咽頭期の嚥下障害に関して，PAP 装着により期待できる効果について症例を供覧すると共に，効果が期待できない症状についても提示した．

新潟大学摂食・嚥下リハビリテーション学の堀　一浩先生には「舌摂食補助床を利用した嚥下機能回復」として，数多くの写真の提示とともに PAP の製作方法を丁寧に解説いただいた．さらに，他の訓練を含めた摂食・嚥下障害に対する，一連のリハビリテーションプログラムにおける PAP の位置づけを解説いただいた．多職種との連携および包括的なリハビリテーションの一環として，PAP の介入を行う必要性を改めて実感させられた．

シンポジストの西脇先生

最後に日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科の西脇恵子先生から，言語聴覚士のお立場より「舌接触補助床の構音障害に対する効果」についてご講演いただき，PAP の装着により構音機能の改善が認められた症例の音声を多数聞かせていただいた．言語聴覚士と歯科医師の両者による診療によってこそ得られた「PAP の力」を，耳で実感したわれわれ聴衆は，チーム医療が得られる環境整備の必要性も痛感させられた．

冒頭での小野先生のご発言にもあったように，「真髄」を探る・語るには，まだ課題も残されているものの，現在の「舌接触補助床の『真実』を探る」に足りる意義深いシンポジウムになったと思われる．なお，各講演の詳細については，本号に掲載されているので，是非ご一読下さい．

（広報委員　中島純子）

関連学会報告

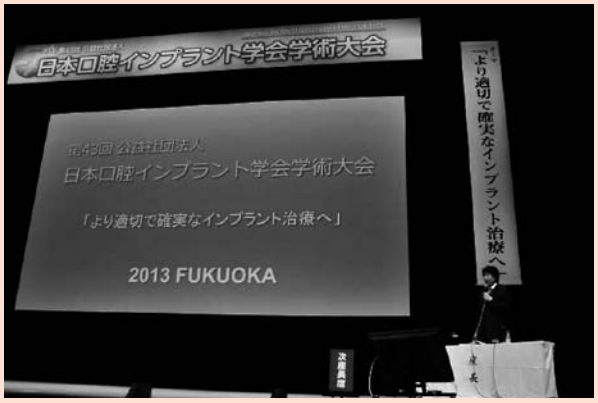
第 37 回日本頭頸部癌学会

2013 年 6 月 13 日，14 日の 2 日間，「知と技の融合―エビデンスに基づいた頭頸部癌治療の新展開―」のテーマのもと，小村　健先生（東京医科歯科大学顎口腔外科学分野）を大会長として，東京，京王プラザホテルで第 37 回日本頭頸部癌学会が開催された．本学会は，頭頸部癌治療に携わる複数の診療科の医師や歯科医師が参加している学際的な学会であるが，歯科界からの主幹校選出は実に 12 年ぶり，口演発表 305 演題，ポスター発表 228 演題と大変な盛会であった．頭頸部腫瘍に対する外科的手技，化学療法，放射線治療等の最先端の知見と手法が活発に発表，討論され，実績の蓄積により頭頸部癌の治療方法が進化していくさまを肌で感じられる学会であった．なかでも，強度変調放射線治療（IMRT）は，有害事象の合併の程度を低減させ，かつ腫瘍に対する最大限の抗腫瘍効果が実績として得られつつあり，頭頸部癌治療の現場における放射線治療の位置づけを大きく変えつつあることが印象的であった．

また，形成外科医の多施設研究グループから「All Japan　多施設共同研究の提唱 1：舌切除再建におけるエビデンスの現状」「同　提唱 2：評価方法の標準化と今後の展開」という口演発表がされた．ガイドライン作成時に直面する問題点である，評価方法の不統一という点を指摘し，科や職種を超えた共同研究，JCOG のみならず学会主導の多施設共同研究部門を推進する専門家を有する NPO などの設立の必要性を訴えており，本学会としても動向を把握する必要もあると思われた．

癌に対する直接的な治療に関する発表が中心となりがちな学会であるが，術後の機能，周術期口腔機能管理，顎顔面補綴に関する発表も散見された．「その他」のセッションに区分されていたこれらの発表も，頭頸部癌治療において確立されたセッションとして，今後より活発に発表されることが期待された．　（広報委員　中島純子）

第 43 回日本口腔インプラント学会学術大会



古谷野　潔大会長

2013 年 9 月 13 ～ 15 日の 3 日間，「より適切で確実なインプラント治療へ」をメインテーマに，古谷野 潔教授（九州大学）を大会長として，福岡国際会議場および福岡サンパレスにて第 43 回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会が開催された．この大会は理事長講演，テーマシンポジウム，海外招待講演などを含む 36 のセッション，優秀研究発表 18 題，一般口演 98 題とポスター発表 110 題があり，参加者総数 4,163 名のマンモス級の学術大会であった．

本学会と関連の深い内容は医療・社会保険委員会セミナーの「保険に導入されたインプラント治療―現状と展望―」であった．去川俊二先生（自治医科大学），立川敬子先生（東京医科歯科大学），鎌田幸治先生（長崎大学）の 3 人の講師が，昨年 4 月から保険に導入された「広範囲顎骨支持型補綴装置」適応症例を供覧しながら，現在の問題点と今後の展望について考察された．このテーマについては本学会でも検討すべき事項ではないかと考えさせられた．　（広報委員長　松山美和）

第19回
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

2013 年 9 月 22 日（日），23 日（月・祝）の 2 日間，「摂食・嚥下リハビリテーション―今求められる事―」をテーマに，岡山県倉敷市川崎医療福祉大学にて第 19 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会が行われた．学会当日は，摂食・嚥下リハビリテーションに携わる多職種の参加者が 5200 名以上参加し，活発な討論が行われた．演題数も 600 題余と例年どおり大変な盛況ぶりだった．内容は基礎から診断・臨床，小児から高齢者と幅広く，このことからも現在多くの症例で摂食・嚥下リハビリテーションが必要とされており，多くの人材と研究が必要とされていることが伺えた．

頭頸部腫瘍に関わる演題は，一般演題で約 40 題だった．頭頸部腫瘍だけではなく，口腔ケアに関する演題はますます増えていた．さらに，今回は補綴に関するセッションが設けられ，口腔腫瘍だけではなく脳梗塞や神経筋疾患患者に対する義歯や補綴装置の効果，その管理などの報告も多く目にすることができた．補綴に対するニーズの高まりとともに，その効果機序をより明らかにしていく必要性を感じる．来年度は第 20 回大会として 2014 年 9 月 6・7 日に東京で開催される．また，前日には 20 周年記念国際シンポジウムの開催も予定されており，各国からの研究者が来られて嚥下障害に関する最先端の話題を聞くことができることと，今から楽しみにしている．

（広報委員　堀　一浩）

第 58 回（公社）日本口腔外科学会総会・学術大会

2013 年 10 月 11 ～ 13 日　日本口腔外科学会総会・学術大会が福岡国際会議場・マリンメッセで行われた．台風 24 号直撃を前々日に免れることができたのは，杉原会長をはじめとする鹿児島大学顎顔面機能再建学講座顎顔面疾患制御学分野の先生方のご努力であることは，会場を訪れて実感できた．「日本の口腔外科学のグローバル化をめざして」をテーマに，グローバル化した多数の演題とミニレクチャー，ビデオレクチャー，ランチョンセミナーなどその数の多さに圧倒された．筆者は，ミニレクチャー（周術期口腔機能管理の現実～周術期センター方式の再評価を中心に）と座長 2 席で参戦したが，自分自身の受講による学習と併せると盛りだくさんで，かなり多忙な状態であり，このニュースレターの写真を取り忘れたほどだ．

演題の今年の傾向は，やはり「再生医療」「周術期口腔機能管理の統計」「ビスフォスフォネート関連骨壊死」であり，「口腔がん治療」演題数が多く，その勢いは衰えることがなかったのは，口腔外科医の日々の努力と思われた．それにもかかわらず顎顔面補綴・顔面インプラント・エピテーゼに関する演題は皆無で，顎骨支持型補綴の演題 1 題のみだった．これは昨年の傾向と同様で，いよいよ顎顔面補綴分野の統計や症例報告はわれわれ顎顔面補綴学会がその専門性をさらに明確にしなければならないと実感した．来年のミニレクチャーでは内視鏡を用いた鼻咽腔補綴と舌接触補助床の調整法などをだし，顎顔面補綴分野への口腔外科医の興味を取り戻したい．　（広報委員　関谷秀樹）

第 27 回日本口腔リハビリテーション学会学術大会

小川　匠大会長

2013 年 11 月 9，10 日，「超高齢社会のニーズを再考する～「食」のサポートの視点から～」をテーマに，小川　匠教授（鶴見大学）を大会長として，鶴見大学会館にて第 27 回日本口腔リハビリテーション学会学術大会が行われた．森戸光彦名誉教授（鶴見大学）による基調講演，野崎園子教授（兵庫医療大学）の特別講演，栢下淳教授（県立広島大学）の教育講演と 3 つのシンポジウムが

盛り込まれ，一般演題は 18 題であった．

シンポジウム①と③は歯科医師，理学療法士，歯科衛生士，言語聴覚士がシンポジストとして講演し，多職種協働を意識した内容であった．また，シンポジウム②は本学会と関連テーマ「顎骨欠損における補綴療法，外科療法について」であり，濱田良樹教授（鶴見大学歯学部口腔外科学講座），佐藤洋平講師（同 有床義歯学講座）が症例の供覧をまじえて講演された．（広報委員長　松山美和）

2013 AAMP & ISMR 10th Biennial Meeting of the International Society for Maxillofacial Rehabilitation

2013 年 10 月 27-30，American Academy of maxillofacial prosthetics（AAMP） と International Society of Maxillofacial Rehabilitation（ISMR） の joint meeting が，New Mexico Santa Ana Pueblo の Hyatt Regency Tamaya Resort & Spa にて開催されました．大自然に囲まれた会場は，鮮やかな黄色に染まった樹々をロビーからも廊下からも愛でることができる贅沢な造りになっており，爽やかで晴れやかな景色に癒されながらの学術大会となりました．

初日のポスターセッションでは愛知学院大学 4 題，岩手医科大学 2 題，鶴見大学，東京医科歯科大学，東北大学，明海大学から各 1 題の発表が行われ全 51 題の内 2 割を日本勢が占めていました．

会場内は業者展示が部屋中を取り囲み，その輪の中でポスターが掲示され，演者の先生方，質問者の先生方および学会で再会を喜び合う参加者などで会場内は大変賑やかでした．また，ISMR/AAMP のロゴのタグが掛かったポスターがポスター賞のノミネートということで，コンペティション審査員の先生方が人波の中，タグの掛かった各演者ポスターからポスターへと飛び回っていました．

学会 2 日目午後は尾澤昌悟先生（愛知学院大学），隅田由香（東京医科歯科大学）が Featured Speaker として発表を行い，無事に責務を果たして参りました．2 会場同時進行であったため，著者は尾澤先生のご講演を拝聴できず残念でした．尾澤先生のご発表演題は『Maxillofacial Prostheses using Japanese Magnetic Attachments』，隅田は『Clinical system in Tokyo Medical and Dental University for radiotherapy』でした．発表後には質問などもあり，興味を持っていただきましたことを大変光栄に思っております．また，改めましてこのような機会を与えて下さった石上理事長先生および国際交流委員会の諸先生方に心より感謝申し上げます．

ポスターコンペティション受賞の武部先生と牧原先生

3 日目の夜の Banquet では，多くのアナウンスとともにポスターコンペティションの結果発表が行われました．一般演題からは武部　純先生（岩手医科大学）の『The effect if ionizing radiation of osteobrast behavior and mineralization process』が，学生演題からは牧原加奈先生（愛知学院大学）の『Longevity of abutment teeth for obturator prostheses』が受賞されました．日本顎顔面補綴学会としても大変喜ばしい結果であり，発表の場に立会えた日本の参加者らは大いに沸き，盛り上がることができました．両先生には紙面をお借りいたしまして心からのお祝いとお慶びを申し上げます．改めまして，おめでとう存じます．

学会全体としてはデジタル技術を駆使したシミュレーションシステム，例えばシミュレーションオペに関する演題が多かったのが印象的です．また，顎顔面補綴科医だけでなく，頭頸部外科医や形成外科医，言語聴覚士らによる講演が数多く組んであり，他覚的に顎顔面補綴を捉え，顎顔面補綴科医として何をなすべきか活発なディスカションがなされておりました．（東京医科歯科大学　隅田由香）

関連学会の案内（平成 26 年）

●第 32 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会
日　程：1 月 23 日（木）～ 24 日（金）
会　長：山下徹郎（恵佑会札幌病院）
会　場：札幌コンベンションセンター（札幌市）
問合せ：〒 003-0027
札幌市白石区本通 14 丁目北 1-1
恵佑会札幌病院歯科口腔外科
Tel：011-863-2101

●第 24 回日本頭頸部外科学会総会・学術大会
日　程：1 月 30 日（木）～ 31 日（金）
会　長：森　　望（香川大学）
会　場：サンポート高松（高松市）
問合せ：〒 761-0793
香川県木田郡三木町池戸 1750-1
香川大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
Tel：087-891-2214　Fax：087-891-2215

●第 68 回日本口腔科学会
日　程：5 月 8 日（木）～ 9 日（金）
会　長：小宮山一雄（日本大学）
会　場：京王プラザホテル（東京都）
問合せ：〒 101-8310
東京都千代田区神田駿河台 1-8-13
日本大学歯学部病理学教室
Tel：03-3219-8001

●第 113 回日本補綴歯科学会
日　程：5 月 23 日（金）～ 25 日（日）
会　長：佐々木啓一
会　場：仙台国際センター（仙台市）
問合せ：〒 105-0004
東京都港区新橋 5-13-5
新橋 MCV ビル 3 階 A 室
Tel：03-5733-4680　Fax：03-5733-4688

●第 38 回日本口蓋裂学会
日　程：5 月 29 日（木）～ 30 日（金）
会　長：飯田順一郎（北海道大学）
会　場：札幌コンベンションセンター（札幌市）
問合せ：〒 060-8586
札幌市北区北 13 条西 7 丁目
北海道大学口腔機能学講座矯正歯科学分野
Tel：011-716-2111

●第 55 回日本歯科放射線学会
日　程：6 月 7 日（土）～ 8 日（日）
会　長：金田　隆（日本大学松戸歯学部）
会　場：タワーホール船堀（東京都）
問合せ：〒 271-8587
松戸市栄町西 2-870-1
日本大学松戸歯学部歯科診断学系放射線学講座
Tel：047-368-6111

●日本老年歯科医学会
日　程：6 月 13 日（金）～ 14 日（土）
会　長：柿木保明（九州歯科大学）
会　場：電気ビルみらいホール（福岡市）
問合せ：〒 803-8580
北九州市小倉北区真鶴 2-6-1
九州歯科大学老年障害歯科学分野

学会ロゴマーク募集中

一般社団法人化を記念しまして，学会ロゴマークを作成することになりました．現在，デザインを公募中です．応募の詳細は学会ホームページに掲載していますのでご覧ください．

応募締切りは 2014 年 1 月末日ですが，2013 年 11 月 15 日現在，9 点の応募があります．学会会員からだけでなく一般の方からも多数応募いただき，予想以上のことに担当一同感激しています．

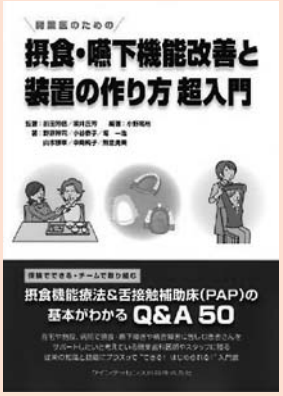
今後のスケジュールは 2 月に 1 次審査を行い，6 月の理事会と社員総会で最終審査を行い，決定する予定です．みなさまには，平成 26 年度会員総会で学会ロゴマークをお披露目いたします．またこの総会では，発案者の表彰を行います．

応募締切りまでもう少し時間があります．みなさんもちょっとデザインを考えて，応募してみませんか？

2013 年 12 月 1 日発行
一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Newsletter No. 18
Maxillofacial Prosthetics

書籍紹介



開業医のための
摂食・嚥下機能改善と
装置の作り方 超入門

摂食機能療法＆舌接触補助床（PAP）の基本がわかる Q&A50

監著：前田芳信，阪井丘芳
編著：小野高裕
著：野原幹司, 小谷泰子, 堀　一浩, 山本雅章, 中島純子, 熊倉勇美
医歯薬出版　5,250 円（税込）

すでに摂食機能療法や舌接触補助装置（PAP）を実践しておられる本学会会員にご紹介するには，編著者としてまことにお恥ずかしいタイトルの本ではありますが, 本邦（ひょっとして世界で）初の臨床的な解説書として平成 25 年 6 月に上梓いたしました．全体が 6 章に分かれ 50 の Q&A で構成されており，摂食機能療法とは何か，その実際，摂食・嚥下障害と補綴装置，PAP の効果と目的，その診断・設計・製作について，写真やイラストを多くしてわかりやすく解説しております．また，最後に歯科医師と言語聴覚士との連携のヒントについても熊倉先生に解説いただきました．出版社の意図としては，一般開業医の方がこれから始める時にスタッフと一緒に読む本ですが，著者側の意図として，歯科医師とコデンタルスタッフだけでなく，医師やコメディカルスタッフにも読んでいただき，歯科的アプローチの意義を理解し，どんどん依頼して下さいというところもあります．学生さんに参考書として使っていただくのもありだと思います．まだまだ未成熟のこの分野ですが，一つのたたき台として世に出しましたこの本をご活用いただき，摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科的アプローチの普及とともに，さらなる深化と成熟に繋がることを願ってやみません．　（編著者　小野高裕）

コンテンツ

第 31 回学術大会案内 …… 1
第 30 回学術大会報告 …… 2
関連学会報告 …… 4
関連学会のご案内 …… 7
書籍案内 …… 8

・皆様のご意見をお寄せください．

日本顎顔面補綴学会広報委員会
委員長　松山美和
委　員　関谷秀樹，堀　一浩，中島純子
山口能正
TEL：088-633-9213，FAX：088-633-7898
E-mail：miwa.matsuyama@tokushima-u.ac.jp
〒 770-8504 徳島市蔵本町 3-18-15
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部